

富山大学人文学部 中国言語文化講演会

モンゴル時代史研究から アガサ・クリスティーを眺めると



講演者：宮紀子氏（京都大学人文科学研究所助教）

専門：モンゴル時代史

略歴：1972年生。徳島県出身。1999年、京都大学大学院文学研究科文献文化学専攻（中国語学中国文学）博士後期課程研究指導認定退学。1999年、日本学術振興会特別研究員。2001年、京都大学人文科学研究所助手。2007年より現職。

著作：『モンゴル時代の出版文化』（名古屋大学出版会 2006年）、『モンゴル帝国が生んだ世界図』（日本経済新聞出版社 2007年）、『モンゴル時代の「知」の東西』（名古屋大学出版会 2018年）など多数。

概要

アガサ・クリスティーは再婚相手である考古学者マックス・マローワンの発掘作業に同行し、その経験を作品の舞台や登場人物の設定に活かしている。その一例である“鷲の巣”に関連し、『百万の書』の諸写本をはじめとするヨーロッパ資料や『集史』等のペルシア語資料、漢文資料の特徴等、近現代のモンゴル時代史の一端について解説する。また、探検家・東洋学者フレヤ・スタークとの出会いが『五匹の子豚』のアンジェラ・ウォレンの人物設定に与えた影響にも触れる。

2018年9月25日(火)13:30～15:30

於富山大学人文学部 1階 大会議室

問い合わせ先：富山大学人文学部東アジア言語文化講座 (moriga@hmt.u-toyama.ac.jp)